

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.69  
2018. September

発行者 琉球病院事務部長  
秋好 輝雪

## 基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

### 美ら島レスキュー 2018 へ参加して

心理療法士 諸見 秀太

平成30年7月18-19日の2日間において実施された美ら島レスキュー2018へ、当院の災害派遣精神医療チーム(DPAT)より医師1名、看護師2名、心理療法士1名が参加致しました。

美ら島レスキューは、沖縄県内で想定される大地震及び津波への災害対処能力の向上を図るため、県下の防災関係機関が一堂に会して実施する防災訓練となります。今回の訓練では、県内で想定される最大規模の地震沖縄南東沖3連動地震を想定し、訓練初日は発災直後～6時間後までの初動対応、2日目は発災47時間後～52時間後までの応急復旧等の対応についての訓練を行いました。参加機関は、市町村自治体をはじめ、自衛隊、県警、各消防本部、県内主要医療機関、民間企業など多種多様な機関が数多く参加していました。

当院DPATチームは、初日と2日目で2チームに分かれ、訓練両日とも県災害医療本部内の災害医療調整班・県DPAT調整本部において県内他DPATチームとともに、県内精神科医療機関への支援訓練を行いました。具体的には、初動対応として、県内精神科医療機関の被災状況の把握、被災精神科医療機関の患者搬送・避難対応、応急復旧対応として県内精神科医療機関のライフライン復旧や物資支援への対応や県外DPATチームの受け入れ調整等について、DMATや関係諸機関と連携して行いました。

訓練では想定していた訓練シナリオ以上に情報の錯綜や混乱を受け、あらためて情報収集・整理・集約・伝達する難しさを感じ、得られた情報をもとに判断・決定・他機関との連携を差し迫る時間的制約のもと安全かつ的確に行うことが課題と感じました。また、災害に備えるにあたり、今回のような訓練に参加することで顔が見えるつながり・支援体制を作っていくことや、一個人・チーム・組織・地域として被災時に何ができて何ができないのかを平時から考え、備えていくことの重要性を再認識しました。そのためにも、患者様ならびに当院職員、地域の皆様も含めて被災した際の支援の在り方について一緒に考えていきたいと思っています。



## トピックス

### 行事・出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟（第1期工事）完成 ..... 平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管盛替工事 完成 ..... 平成29年2月
- 新病棟（第2期工事）完成予定 ..... 平成30年10月

### 教育・研修

- 第106回知的障害・発達障害児(者)に関するミニレクチャーと事例検討会
- 日時：平成30年9月8日(土) 10:30～15:00
- 場所：琉球病院 新重症病棟3階 山の子ホール
- 参加：当日受付 無料

## ● 地域医療連携室だより

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。

一般精神をはじめ、アルコール依存症(アディクション全般)、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えています。

また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供し、適切な対応ができるよう充実した取り組みを行い、地域のニーズに応えられるよう日々努力していきたくと思っています。また、受診のご相談、入院予約に関するお問い合わせはお気軽に地域連携室までお問い合わせください。

## 院長

福治康秀(ふくじ やすひで)  
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。  
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。  
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。  
日本病院・地域精神医学会理事。



## 診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

## 病床数 416床 (運用 392)

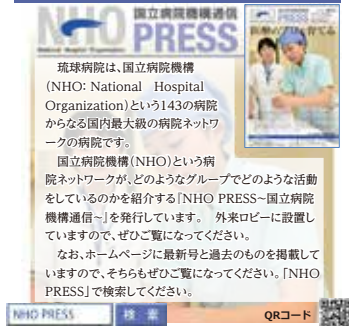
- 精神科病棟 151床
- 認知症 56床
- アルコール 54床
- 児童思春期 ユニット 4床
- 重症心身障がい 90床
- 医療観察法 37床



### ● アクセス

路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス下車徒歩3分  
自動車/那覇市から40分  
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

## NHO PRESS～国立病院機構通信～について



お問い合わせ時間  
8:30～17:15 (土・日・祝日以外)  
TEL: 098-968-2133 (代)  
内線: 231・234  
地域医療連携室(直通)  
TEL: 098-968-3550  
FAX: 098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療



### クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は243例になりました。平成30年7月のCLZ導入は3例で、このうち2例は他の病院からのご紹介の患者様(入院中2例、通院中0例)でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動もなくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

### m-ECT(修正型電気けいれん療法)の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っています。平成30年7月の治療実績はありませんでした。

## こども心療科

こども心療科では、県から委託を受けている「子どもの心の診療ネットワーク事業」の一環で、日本における発達障がい支援の第一人者で、近年はトラウマ治療にも精力的に取り組まれている杉山登志郎先生をお招きし、先生が開発・実践されている簡易型トラウマ処理の実践についてご講演いただきます。関心のある方は、こども心療科事務の上原まで連絡下さい。

タイトル：複雑性PTSDを呈する患者に対する簡易型トラウマ処理  
 講師：福井大学子どものこころの発達研究センター客員教授 杉山登志郎先生  
 日時：2018年9月22日(土) 18:30~20:30(受付時間18:00~)  
 会場：沖縄県医師会館(南風原町) 3階ホール  
 参加費：無料 定員：130名  
 申込締切：2018年9月10日(月)



## 認知症医療

4月より当院へ言語聴覚士が配置となり、当病棟において摂食機能療法が行えるようになりました。

認知症の患者様には脳卒中等の既往歴のある患者様も多く、嚥下機能の低下などから肺炎などの合併症を起こされる方もいらっしゃいます。その原因と背景は様々で、お口や咽頭にとどまらず全身状態や環境に至るまで多様な視点からの働きかけを行う必要があります。そのため、関わる職種も医師・言語聴覚士・看護師・理学療法士・作業療法士・栄養士など多職種にわたります。

摂食機能訓練を導入することで患者様の「食べられない」「食べられない形がある」などの問題に対しアプローチをおこない、患者様の「食」をチームとしてサポートしたいと思います。

## 重症心身障がい医療

平成30年7月、国立病院機構本部において強度行動障害医療研修が行われ、ファシリテータとして参加しました。行動療法を中心として医療、看護、心理、療育指導室、リハビリの各職種から講演及びグループワークが行われました。行動療法や構造化による介入は、視覚的な教示により分かりやすく、肯定的な関わりが行え、強度行動障害への専門療育として位置づけられています。行動のきっかけは何であるのか(物や活動の要求、感覚刺激、注目されたい、回避等)を考え、アセスメントに基づきチームによる統一した対応を行うことが重要となります。当病棟は地域からのニーズとして、強度行動障害への対応があげられます。利用者のケアの充実をはかると共に治療的機能を高め、地域移行を進めていくことが求められています。

## アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では30年6月末現在、外来通院の患者様78名、入院中の患者様19名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

## 包括的地域精神医療

平成30年7月の訪問看護利用者件数は、707件のご利用をいただき月平均では34件の訪問看護の展開となりました。8月は旧盆もあり、ご利用者様の親族の帰沖や来客の対応、ご馳走の準備など在宅での頑張りに感動しました。

9月に入っても、まだまだ猛暑が続きます。発汗にて水分や塩分が失われ、家の中にも熱中症になる事もあります。訪問看護でも常に観察や注意喚起の声かけを行っています。意識的にスポーツドリンクやミネラル入りの麦茶等をこまめに飲んで、熱中症予防に努めましょう。

## 臨床研究部活動状況

### 「アルコール依存症患者に対する栄養介入 ー管理栄養士に求められる役割ー」 栄養管理室 伊澤 美夏

アルコール依存症では肝機能障害や耐糖能異常を併発しやすく、特別な栄養管理が必要になります。断酒に加え食事療法を両立させるために生活状況を大きく変えることはとても難しく管理栄養士に求められる役割とは何か日々模索しています。

ある患者様はアルコール性肝硬変と糖尿病を合併していた為、入院当初から食事療法を行っていましたが、空腹感を訴え間食を行うなど食事療法の継続が困難な状況が続きました。そのため医師や看護師、調理スタッフなどの多職種で情報共有し、間食制限を行う代わりに野菜量を増やすなど病院食の調整を行うことで入院治療を継続することができました。食事療法を立案する際、生活背景やの患者特性に合った介入を行う為には多職種との連携が重要だと再認識しました。今後も患者様のニーズに合った効果的な食生活支援を目指していきたいと思っております。